

【基本方針】

「利用者が自分らしく過ごせる居心地のよいデイサービスを目指す」

【年間目標】

- ① 事故、ヒヤリハットを低減し、事故「0」を目指す
- ② 感染症対策を徹底して行い、感染症の蔓延を予防する
- ③ 1日平均利用者数32名以上を維持する
- ④ 利用者の個性に合った活動プログラムを企画し提供する
- ⑤ 職員が接遇技術や介護技術を互いに高めあい、共に成長していく職場を作る

【実践計画】

- ① 介護事故を防止し、介護事故「0」を目指す

◎ 令和3年4月1日現在・・・レベル2

目標 : 令和3年9月迄には、レベル3迄到達する

具体的計画 : 利用者の状態をLIFEに入力し、厚労省からのフィードバックを確認する。その結果を月1回の寮母会議の議題とし、事故リスクが高い利用者のピックアップと事故防止策の検討を行う。その結果を朝礼時に職員間で情報共有し、利用者個別に事故リスク軽減の対応を行う。

ヒヤリハットの提出を職員に促し、日常生活における事故リスクの認識を高める。

- ・利用者立位時の付き添いの徹底を行うため、現場で職員がお互いに声を掛け合いながら、利用者の身体状況に合わせて適切な介助を行い、危険な場合は応援要請するなど臨機応変な対応をする
- ・毎日の朝礼終礼時には、当日あった出来事（介護事故、車両事故）を必ず話し合い毎月1回の会議時には、その事故についての検証を行い、利用者の心身状況に応じたリスクや起因しやすいであろう事故を予見した形で情報共有を図り、適宜各職員が意識しているかを確認する

- ② 感染症対策を徹底して行い、感染症の蔓延を予防する

◎ 令和3年4月1日現在・・・レベル3

目標 : 令和3年9月迄には、レベル4迄到達する。

具体的計画 : 手洗い、うがい、消毒、定期的な検温等の基本的な感染症対策に加え、どのような場面でも3密にならないよう注意する。また、利用者が利用している他事業所のサービスについても注意深く情報収集し、デイサービス内に感染症を持ち込まないようにする。

介護職は利用者の大切な命を預かっているという認識を職員に伝え、業務以外のプライベートな時間でも介護職としての自覚を持つことの重要性を認識させる。

- ・コロナウイルスのみならず、インフルエンザなどの感染症を蔓延させないため、1年を通してスタンダードプリコーションを徹底する
- ・利用者の疾病や服薬などの情報を把握し、利用者の小さな変化にも気づけるよう日頃から利用者のケースファイルに目を通すなど「利用者を知る」意識を持つ

③ 1日平均利用者数32名以上を維持する

◎ 令和3年4月1日現在・・・レベル3

目標 : 令和3年9月迄には、レベル4迄到達する。

具体的計画 : 新規の案件については、体験からの取りこぼしが無いようにする。その為に利用者、家族、ケアマネジャーからの初期アセスメントを丁寧にを行い、ニーズの把握に努める。

利用者のデイサービスでの状況や問題点等は速やかにケアマネジャー、ご家族に報告し、また、相談される事柄については迅速かつ丁寧に対応し、信頼関係の構築に努める。

また、コロナ過において、デイ利用を見合わせる利用者が増加している現状を冷静に捉え、その方々がデイ利用を再開した時に定員超過する事のないよう、利用人数のコントロールを行う。

利用者のニーズに応えられるようにサービスの質を高める。

- ・日々ご利用者との関わりの中で、利用者同士が交流を持てるよう、職員が利用者間の仲立をし、関りの中で利用者のニーズと現状の把握を行う。把握した内容によってはレクリエーション活動や機能訓練に反映させ、個々の利用者が満足できるサービスの質を担保する
- ・レクリエーションやお誕生日会等は写真撮影を行い、ご家族へのお手紙、有瀬日より、ブログに反映させ、外部への営業ツールとして活用する。地域包括支援センター、各居宅介護支援事業所へFAXを行う事、サービス担当者会議には手持ちの資料として持参し、確認していただく事を実践する

④ 利用者の個性に合ったサービスを提供する

◎ 令和3年4月1日現在・・・レベル2

目標 : 令和3年9月迄には、レベル3迄到達する。

具体的計画 : LIFE入力、厚労省からのフィードバックを活用し、利用者それぞれに合った機能訓練、レクリエーション等を月1回の寮母会議にて検討する。

今年度より個別プログラムと称して5~6種類のレクリエーションを準備し、その中から利用者本人が希望するレクリエーションを選択し楽しんで頂く日を設ける。それを行う過程で、個別対応の大切さを職員に意識付けしていきたい。

- ・利用者が自身で複数の活動内容から選択し楽しみながら取り組める活動プログラムを提供し、全利用者の ADL・QOL の向上を目指す
- ・家庭的な居心地の良い空間(温度、湿度、音楽等)を提供し、重介護でも安心して穏やかに過ごしていただけるような環境づくりをする
- ・利用者との信頼関係を構築し、どんな些細なことでも相談できる関係づくりと、相談内容が的確に且つ素早くサービスに反映できるよう情報共有を迅速に行う。また、所在地域における住民のニーズの把握と地域の福祉相談場所としての役割を果たす
- ・CHASE (科学的介護推進体制) を運用する事で、利用者にとって適した活動を選択し、最も効果がある機能訓練、活動、過ごし方等を分析する

⑤ 職員同士が互いに接遇技術や介護技術の質を高めあっていく。

◎ 令和3年4月1日現在・・・レベル2

目標 : 令和3年9月迄には、レベル3迄到達する。

具体的計画 : 月1回行われる寮母会議にて介護技術や高齢者・認知症についての理解を深められるような勉強会を開催。その中で各職員のスキルアップを目指す。

職場内で接遇技術や介護技術について気軽に相談しあえる関係性の構築に努める。

介護福祉士の国家資格を取る為、実務者研修に行きやすいような勤務体制にする。また、スムーズな取得の為、試験対策も協力し、受講者全てが介護福祉士を取れるよう努める。

- ・介護の基本に立ち返り、食事、入浴、排せつの3大介護の技術を徹底的に磨いていく。職員同士が介護技術や接遇について気軽に相談やアドバイスができ、共に学びあっていける環境を作り、利用者が安心して介護を任せられる職員を育成する。
 - ・実際の介護現場において、利用者の状況に即しその場で実践できる内容の研修を随時開催し、またその内容を職員に周知し職員全体の介護技術の底上げをする。
 - ・一人一人の職員が専門的な資格取得を目指す事ができるよう、日常よりの勉強会等開催し、将来的に介護福祉士の国家資格取得を促す事が出来る
- ※サービス提供強化加算を取得に努める

令和3年度稼働目標

年月	登録者平均	平均利用者数	年平均	出席率	稼働率	年稼働
4	38	33	32	87%	73%	73%
5	36	33	33	92%	73%	73%
6	36	32	33	89%	71%	73%
7	36	34	34	94%	76%	73%
8	35	33	33	94%	73%	73%
9	37	34	35	92%	76%	74%
10	37	35	34	95%	78%	74%
11	37	34	33	92%	76%	74%
12	36	33	33	92%	73%	74%
1	35	33	32	94%	73%	74%
2	34	32	32	94%	71%	74%
3	35	33	33	94%	73%	74%